

(提案7)

日本学術会議主催学術フォーラム「多文化共生社会の現在と在日外国籍女性」の開催について

1 開催時期：平成25年12月8日（日）13時～17時

2 開催場所：日本学術会議講堂

3 開催趣旨

多文化共生社会の実現を目指した取り組みが行われるようになって久しい。また、2009年からは、5ヵ年計画で「外国人」女性をも対象に含めた第三次男女共同参画計画が実施されている。現代社会では、このように様々な社会的なバリエーションをなくすことが求められ続けている。日本学術会議の多文化共生分科会ではこれまで多様な取り組みを行ない、そのなかで、外国籍の女性とその属性ゆえに経験する問題が多数みえてきた。また、ジェンダー研究分科会でも、「災害復興」「雇用崩壊」など具体的な問題に絡んで検討を行うなかで、外国籍の人びとが直面する問題に関する認識が深まってきた。このような経過を経て、今回、両分科会が共同し、ジェンダー視点で多文化共生を検討するという企画が浮上した。

今回のシンポジウムでは、特に在日外国籍女性が経験している問題群をとりあげることとする。多岐にわたる問題点の中で、1) 外国籍女性の就労、格差、2) 改定入管法と外国籍女性、3) 多文化共生の地域的多様性、4) 外国籍女性と家族形成の現状、の諸問題に光を当て、多文化共生社会を実現するうえで、どのようにジェンダーにかかわる課題群があるのか、またその解決策をさぐる。

4 次第（予定を含む。）

挨拶

上野千鶴子（日本学術会議第一部会員、東京大学名誉教授）

司会・趣旨説明

窪田 幸子（日本学術会議連携会員、神戸大学大学院国際文化学研究科教授）

報告 1 鄭 暎惠（大妻女子大学教授）

「改定入管法と外国籍女性（仮題）」

報告 2 大村 昌枝（宮城県国際化協会）

「被災地における多文化共生（仮題）」

報告 3 イシカワ・エウニセ（静岡文化芸術大学文化政策学部准教授）

「外国籍女性の就労と格差（仮題）」

報告 4 嘉本伊都子（京都女子大学現代社会学部教授）

「外国籍女性と家族形成の現状(仮題)」

コメント 伊藤 るり(日本学術会議連携会員、一橋大学大学院社会学研究科教授)
塩原 良和(慶應義塾大学法学部教授)

閉会挨拶 山本 眞鳥(日本学術会議第一部会員、法政大学経済学部教授)

日本学術会議主催学術フォーラム「アジアの経済発展と地球環境の将来
—人文・社会科学からのメッセージ」の開催について

1 日 時：平成26年1月11日（土）13時30分～17時30分

2 場 所：日本学術会議講堂

3 開催趣旨

過去20年ほどのあいだに、成長アジアは、世界でもっとも多く資源・エネルギーを輸入する地域になってしまった。いわゆる無資源国だけではなく、かつての資源国もほとんどが資源の輸入国に転じたからである。他方、東アジアでは、欧米を中心に発達した資本集約的・資源集約的な工業化がそのまま移植されたのではなく、比較的労働集約的で資源節約的な技術が発達してきたので、エネルギー集約度（GDP1単位を産出するためのエネルギー消費量）は低い傾向にあった。日本のエネルギー節約型技術は現在でも世界をリードする水準にある。こうして、東南アジア、南アジアを含む広域アジアは、いまや生産者としても消費者としても世界の資源・エネルギーの需給関係を規定する存在になりつつある。

言うまでもなく、モンスーンアジアは、ヒマラヤ山脈を焦点とする、地球最大の水・熱循環を作り出しており、そこに世界人口のほぼ半分が居住している。それは、熱帯・温帯といった区分を超える、文明と経済の大きなまとまりを歴史的に形成してきた。現在では、この地域が全面的に工業化・都市化しつつあり、そこでの資源・エネルギー利用が世界経済の動きを律しはじめているのである。

アジアの成長が牽引する世界経済の姿は、地球環境にどのような影響を与えているのか。また、アジア地域が長期にわたって、固有の環境のなかで形成してきた経済発展径路は、それが地球環境全体に影響を及ぼし始めたとき、その将来をどのように規定するのであろうか。本シンポジウムでは、この問題に関わるいくつかのテーマについて深い思考を続けてきた専門家に、将来も見通した長期展望を論じてもらい、現在の認識水準を共有したい。

なお、討論では、理系の専門家にも討論に参加していただいて文理融合型研究の可能性を探るとともに、地球環境問題に関する新しい国際イニシアティブであるFuture Earthに対し、日本の人文・社会科学がどのように関わっていくのかについても手掛かりを得たいと考えている。

5 次第（予定を含む。）

開会の挨拶

山本 眞鳥（日本学術会議第一部会員、法政大学経済学部教授）

問題提起

杉原 薫（日本学術会議第一部会員、政策研究大学院大学教授）

報告

植田 和弘（日本学術会議特任連携会員、京都大学大学院経済研究科教授）

「アジア経済と地球環境－長期的展望－」

田中 耕司（日本学術会議第一部会員、京都大学総長室特命補佐・学術研究支援室シニアリサーチアドミニストレーター（特任教授））

「モンスーンアジアの生態と生存基盤－歴史的展望－」

佐藤 仁（東京大学東洋文化研究所准教授）

「資源問題と政府の役割－長期の課題への行政の対応をめぐって－」

佐藤 孝弘（国際稲研究所（フィリピン））、

峯 陽一（同志社大学大学院グローバルスタディーイズ研究科教授）

「人間開発指数から生存基盤指数へ－地球環境の持続的評価－」

パネルディスカッション

安成 哲三（日本学術会議第三部会員、総合地球環境学研究所長）

氷見山幸夫（日本学術会議第三部会員、北海道教育大学教育学部教授）

及び上記報告者

（司会）杉原 薫（日本学術会議第一部会員、政策研究大学院大学教授）

閉会の挨拶

広渡 清吾（日本学術会議前会長・連携会員、専修大学法学部教授）

公開シンポジウム「グローバル化社会における伝統知と古典教育の意義を探る」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 哲学委員会 古典精神と未来社会分科会
2. 後 援：特定非営利活動法人中村元記念館東洋思想文化研究所
3. 日 時：平成 25 年 11 月 23 日（土）13:00～17:30
4. 場 所：中村元記念館
島根県松江市八束町波入 2060（松江市役所八束支所 2 階）
5. 分科会：開催予定

6. 開催趣旨：

「グローバル化」が叫ばれて久しいが、往々にして「英語の運用能力を持つこと」がグローバルな人材であるかのごとき言説を見かける。たとえば、「ジェネラリスト（総合職）」を標榜している国家公務員（I 種）採用試験でも、現在課せられているのは語学力のほか、「法学」・「行政」・「経済」といった専門的な科目である。しかし、欧米諸国等のグローバルスタンダードでは、真のジェネラリスト養成に必須なのは伝統知の継承と古典教育だとされている。現今課題となっているグローバル化では、根本に立ち戻ってこの点を顧みる必要がある。このような問題意識を起点として、島根県松江市において公開シンポジウムの開催を企画した。

松江市は、近代化以前の日本の原風景を愛した小泉八雲ゆかりの地である。また、今年 60 年ぶりに遷宮した出雲大社に近く、記紀神話や出雲国風土記にゆかりの深い同市は、東洋思想研究に巨大な足跡を遺した中村元博士の生誕の地でもある。中村博士の生誕百年を記念して昨秋創設された中村元記念館を会場にして、古き日本の歴史と文化が生きる松江の有識者・市民を迎え、古典（広義の伝統知）の未来社会的な意義を探る本シンポジウムの趣意をともに議論し、大都市の視線とは異なる角度からの批評を仰いで、学術会議と一般社会との連携を深めていくことが目的である。

7. 次第

司会 吉水千鶴子*（日本学術会議連携会員、筑波大学人文社会系教授）

13：00～13：10 挨拶と趣意説明

丸井 浩* (日本学術会議第一部会員、東京大学大学院人文社会系
研究科教授)

13:10~13:40 東洋の伝統知とその現代性

土田健次郎* (日本学術会議連携会員、早稲田大学文学学術院教授・早稲
田佐賀学園理事長)

13:40~14:10 古典教育のなかの記紀

小島 毅* (日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研
究科教授)

(休憩 10 分)

14:20~14:50 公共哲学から伝統知の意味を考える

小松 優香 (筑波大学人文社会系准教授)

14:50~15:20 ジェネラリスト養成における古典教育の役割

葛西 康德* (日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研
究科教授)

15:20~16:00 コメント

谷川多佳子* (日本学術会議連携会員、筑波大学名誉教授)

石崎 嘉彦 (摂南大学外国語学部教授)

(休憩 15 分)

16:15~17:25 総括討論

討論者：高木 紳元 (高野山大学名誉教授、東方学院松江校講師)

ほか登壇者を含む数名

17:25~17:30 閉会挨拶

清水谷善圭 (NPO 法人 中村元記念館東洋思想文化研究所理事長)

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

(*印の講演者等は主催分科会委員)

公開シンポジウム「第3回計算力学シンポジウム」の開催について

1. 主催：日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同 計算科学シミュレーションと工学設計分科会
2. 共催：日本機械学会、日本応用数理学会、日本計算工学会、日本シミュレーション学会、日本計算力学連合、日本計算数理工学会、アジア太平洋計算力学連合、国際計算力学連合、自動車技術会
3. 後援：なし
4. 日時：平成25年12月3日（火）13：00 ～ 18：00
5. 場所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：なし

7. 開催趣旨：

我が国を代表する計算力学関連学会が一堂に会し、各学会を代表する若手が最近の成果を披露する。それにより各学会がベクトルを合わせ今後協力して世界に発信できるようになる。さらに、「自然災害と計算シミュレーション」をテーマに、各学術分野をリードするパネリストの方々に話題提供をいただき議論する。

8. 次第：

10：00 開会の辞

矢川 元基*（日本学術会議連携会員、原子力安全研究協会理事長、国際計算力学連合会長）

10：10-10：35 講演 1 （日本機械学会計算力学部門）

姫野 武洋（東京大学大学院工学系研究科航空宇宙工学専攻准教授）

「様々な加速度環境における自由表面流」

10：35-11：00 講演 2 （日本応用数理学会）

石田 祥子（明治大学先端数理科学インスティテュート研究員）

「折紙の数理とその工学応用」

11：00-11：25 講演 3 （日本計算工学会）

小野寺直幸（東京工業大学学術国際情報センター高性能計算先端応用分野特任助教）

「TSUBAME の GPU を用いた格子ボルツマン法による流体構造連成のラ
ージエディ・シミュレーション」

11 : 25-11 : 50 講演 4 (日本シミュレーション学会)

前山 伸也 (独立行政法人日本原子力研究開発機構核融合研究開発部
門プラズマ理論シミュレーショングループ博士研究員)

「京コンピュータにより実現された磁場閉じ込めプラズマにおける
電子/イオン系乱流シミュレーション」

12 : 00-13 : 30 昼休み

13 : 30-13 : 55 講演 5 (日本計算数理工学会)

藤原 宏志 (京都大学大学院情報学研究科複雑系科学専攻助教)

「数値解析学と多倍長計算による高精度・高信頼な数値計算の実現」

13 : 55-14 : 20 講演 6 (日本計算力学連合)

高橋 昭如 (東京理科大学理工学部機械工学科准教授)

「金属材料の強化機構に関する離散転位動力学解析」

14 : 20-14 : 45 講演 7 (日本シミュレーション学会)

渡邊 正宏 (富士通株式会社次世代テクニカルコンピューティング開
発本部アプリケーション開発統括部シニアプロフェッシ
ョナルエンジニア)

「マルチスケールシミュレータの実現と解析事例ー心臓シミュレータ、
磁界シミュレーター」

14 : 45-15 : 10 講演 8 (可視化情報学会)

武藤 昌也 (京都大学大学院工学研究科機械理工学専攻特定助教)

「回転球に作用する負のマグナス力の数値解析」

15 : 30-17 : 30 パネルディスカッション：シミュレーションリテラシー

パネリスト：

吉村 忍* (日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学研究科シス
テム創成学専攻教授)

大島 まり* (日本学術会議連携会員、東京大学大学院情報学環生産技
術研究所教授)

平野 徹 (ダイキン情報システム株式会社常務取締役)

大石 信一 (早稲田大学基幹理工学部応用数理学科教授)

司会：小山田耕二* (日本学術会議連携会員、京都大学国際高等教育院
教授)

17 : 30 閉会の辞

萩原 一郎* (日本学術会議会員、明治大学教授、先端数理科学インス
ティテュート副所長)

9. 関係部の承認の有無： 第三部承認

(*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案 1 1)

公開シンポジウム「大学で学ぶ経済学とは～学士課程教育における参照基準を考える～」の開催について

1. 主催：日本学術会議 経済学委員会 経済学分野の参照基準検討分科会
2. 日時：平成25年12月4日（水）14時00分～17時00分
3. 場所：日本学術会議講堂
4. 分科会の開催：開催予定あり

5. 開催趣旨：

日本学術会議は、文部科学省高等教育局長からの審議依頼に応じて2010年にとりまとめた回答「大学教育の分野別質保証の在り方について」に基づき、自ら教育課程編成上の参照基準を策定する作業を、関連する分野別委員会においておこなっている。経済学委員会は「経済学分野の参照基準検討分科会」において審議をおこない、このたび「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 経済学分野」の原案がまとめられた。参照基準は、経済学の教育課程を設置する大学および経済学教育に関心のある方々に広く利用していただくことが期待されている。このシンポジウムは、日本学術会議内外から広く意見をいただき、それを最終案に反映させるために開催するものである。

6. 次第：

司会

久本 憲夫*（日本学術会議連携会員、京都大学公共政策大学院教授）

14:00～14:10 開会の挨拶

岩本 康志*（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院経済学研究科教授）

14:10～14:35 基調報告「大学教育の分野別質保証と参照基準」

北原 和夫（日本学術会議特任連携会員、東京理科大学大学院科学教育研究科教授）

14:35～15:00 分科会報告「経済学分野の参照基準案について」

岩本 康志*（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院経済学研究科教授）

(15:00～15:10 休憩)

15:10～16:50 パネルディスカッション

モデレーター 奥野 正寛*（日本学術会議特任連携会員、武蔵野大学政治経済学部教授）

パネリスト 池尾 和人*（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学経済学部教授）
多和田 眞*（日本学術会議連携会員、愛知学院大学経済学部教授）

本多 佑三 (日本学術会議連携会員、関西大学総合情報学部教授)
八木紀一郎 (日本学術会議連携会員、摂南大学経済学部教授)
前原 金一 (公益社団法人経済同友会副代表幹事・専務理事)

16:50～17:00 閉会の挨拶

樋口 美雄 (日本学術会議第一部会員、慶應義塾大学商学部教授)

8. 関係部の承認の有無： 第一部承認

(*印の講演者等は、主催分科会委員)

(提案 1 2)

公開シンポジウム「3・11後の『いのち』を語る言葉を考える」の開催について

1. 主催：日本学術会議 哲学委員会、同いのちと心を考える分科会、同芸術と文化環境分科会、同古典精神と未来社会分科会、同哲学・倫理・宗教教育分科会、同共生と対話の人文学分科会
2. 共催：日本哲学系諸学会連合、日本宗教研究諸学会連合
3. 日時：平成 25 年 12 月 7 日（土）14：00～17：30
4. 場所：日本学術会議講堂
5. 委員会：哲学委員会及び合同分科会を開催予定

6. 開催主旨

3.11 後に限定するわけではないが、震災後に際立ってきた言葉のあり方について、とりわけ「いのち」を語る言葉のあり方について考える。死とせめぎ合う「いのち」の叫びや息づかいを言葉はどう掴みとり、どう語って来たのか、あるいは、来なかったのか。言葉にならない、声にならない過酷な現実を前に、なお言葉を立ち上げ、言葉に収めとめ、生きる新たなエネルギーを可能にするような鮮烈な言葉が語られてきた一方で、当面は良きものとして発せられながら、結果としては空疎・軽薄・無力、ひいては暴力・詐術として働いた言葉もしばしばあった。このシンポジウムでは、こうした「いのち」をめぐる言葉の、表現や伝達、理解、共感のあり方について、思想・宗教・文学・教育の問題として、じっくりと議論してみたいと思う。

7. 次第

- ・司会・コーディネーター
竹内 整一*（日本学術会議連携会員、鎌倉女子大学教授）
- ・パネリスト
末木文美士（国際日本文化研究センター教授）
「死者、自然、時間」
影浦 峯（東京大学大学院教育研究科教授）
「語りの配置と言葉の場所」
田口ランディ（作家）
「物語に何ができるのか」
谷山 洋三（東北大学大学院文学研究科准教授）
「『いのち』に寄り添う宗教者」
- ・コメンテーター
野家 啓一*（日本学術会議第一部会員・哲学委員会委員長、東北大学大学院文学研究科教授）
清水 哲郎*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科特任教授）

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

(*印の講演者等は、主催委員会及び分科会委員)

公開シンポジウム「我が国における高度実践看護師のグランドデザインPart II」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 健康・生活科学委員会 看護学分科会
2. 共 催：日本看護系学会協議会
3. 後 援：日本看護科学学会、第33回日本看護科学学会学術集会
4. 日 時：平成25年12月7日（土）17:00～19:00
5. 場 所：大阪国際会議場 特別会議室
6. 分科会の開催：なし

7. 開催趣旨：

日本看護系大学協議会から、現行の専門看護師とナースプラクティショナーで構成される高度実践看護師養成の方針が示され、今後教育課程や審査基準案を検討するとしています。一方で日本看護協会では認定看護師を養成し、厚生労働省では特定行為の認証制度が進められています。日本学術会議看護学分科会は2度にわたり、我が国における高度実践看護師制度の創設について提言してきました。本シンポジウムでは、昨年に引き続き、看護界のホットなトピックスをテーマとし、すでに40年前から高度実践看護師の制度を発展させてきた米国から Kathy Magilvy 氏を交えて、我が国の目指すべき高度実践看護師制度を討議します。

8. 次 第：

司会：高田 早苗（日本看護系学会協議会副会長、日本赤十字大学学長）

太田喜久子*（日本学術会議第二部会員・看護学分科会委員長、慶應義塾大学看護医療学部教授）

シンポジスト

17:00-17:30 米国における高度実践看護師の最新動向

Kathy Magilvy（コロラド大学名誉教授）

17:30-18:00 日本看護系大学協議会が考える「高度実践看護師」と教育

田中美恵子*（日本学術会議連携会員、東京女子医科大学看護学部長・教授）

18:00-18:30 高度実践看護師検討委員会が考える「高度実践看護師」と教育
内布 敦子*（日本学術会議連携会員、兵庫県立大学看護学部教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案 14)

日本学術会議公開シンポジウム「神宮の森・これまでとこれからの100年
—鎮座百年記念・第二次明治神宮境内総合調査から—」

1. 主 催 日本学術会議 環境学委員会
2. 共 催 第二次明治神宮境内総合調査委員会
3. 日 時 平成25年12月12日(木) 13:00-17:00
4. 場 所 日本学術会議講堂
5. 分科会の開催 あり
6. 開催趣旨

日本学術会議の環境学委員会は「日本の展望・環境学」で、「持続可能な社会に向けた国土と地球環境形成に向けた環境学」の取組みを提案し、6つの分科会活動をすすめている。

この度、その1つ「都市と自然と環境分科会」(委員長・進士五十八)と「第二次明治神宮境内総合調査委員会」(委員長・中島精太郎)の協力による神宮内苑(神宮の森)の自然環境総合調査が完了、このほど調査報告がまとまった。

神宮の森の造成は大正9年。前回の自然環境調査は昭和45年で、この度の第二次自然環境調査は神宮の鎮座百年に先立つおよそ10年前の取組みとして平成23年から2年間にわたり、第一次調査との比較や大都市環境下での森と生き物の総合的な実態把握を目指して実施され、数々の知見を得た。

すでにこの巨大都市東京の都心に育まれた唯一の“人のつくった森”として世界的に評価を得ている“神宮の森”の現在の姿を、科学の目と映像を通して広く市民の皆さんと共有し、平成32年の鎮座百年を控え、さらなる次の百年に向けてどのようにすれば都市的環境の下で持続可能な森でありつづけることが可能か、多方面の知恵を結集し、討論したい。

7. 次 第

13:00-13:05 開会と挨拶

石川 幹子*(日本学術会議第三部会員・環境学委員会委員長、中央大学理工学部人間総合理工学科教授)

大西 隆(日本学術会議第三部会員・会長、東京大学名誉教授)

13:05-13:10 鎮座百年の明治神宮

中島精太郎(鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査委員会委員長、明治

神宮宮司)

13:10-13:30 人のつくった森の科学と技術

進士五十八* (日本学術会議連携会員、東京農業大学名誉教授、第二次明治神宮境内総合調査委員会座長)

13:30-13:45 新発見データの発表——第二次総合調査から

新里 達也 (明治神宮境内総合調査委員会主査、(株)環境指標生物代表)

13:45-14:00 映像——生命を育む神宮の杜

伊藤弥寿彦 (株)トレジャー・パブリッシング 映像プロデューサー、明治神宮境内総合調査委員会委員)

14:00-14:10 —休憩—

14:10-15:30 神宮の自然特性——第二次総合調査各班報告

進行：新里 達也

濱野 周泰 (日本学術会議連携会員、東京農業大学地域環境科学部教授、明治神宮境内総合調査委員会主査)

樹 木／濱野 周泰 (日本学術会議連携会員、東京農業大学地域環境科学部教授、明治神宮境内総合調査委員会主査)

植 生／奥富 清 (東京農工大学名誉教授)

シダ植物／中池 敏之 (東洋英和女学院大学非常勤講師)

変 形 菌／萩原 博光 (国立科学博物館名誉研究員)

鳥 類／柳沢 紀夫 (日本鳥類保護連盟元理事)

クモ類／小野 展嗣 (国立科学博物館研究主幹)

土壌生物／青木 淳一 (横浜国立大学名誉教授)

15:30-15:40 —休憩—

15:40-16:30 これからの森・自然環境の持続可能性に向けて—パネルディスカッション

コーディネーター 進士五十八* (日本学術会議連携会員、東京農業大学名誉教授、第二次明治神宮境内総合調査委員会座長)

パネリスト 養老 孟司 (東京大学名誉教授)

森 嶋 昭夫 (財団法人日本環境協会前理事長)

石川 幹子* (日本学術会議第三部会員・環境学委員会委員長、中央大学理工学部人間総合理工学科教授)

鷺谷いづみ* (日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

中島精太郎 (鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査委

員会委員長、明治神宮宮司)

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

(*印の講演者は、主催委員会委員)

公開シンポジウム「気候変動に対応した作物栽培技術の現状と展望」の開催について

1. 主催：日本学術会議 農学委員会 農学分科会、育種学分科会、農業生産環境工学分科会
2. 共催：日本作物学会、園芸学会、日本植物病理学会、日本農業工学会、日本農業気象学会（予定）
3. 後援：東京大学農学生命科学研究科（予定）、日本育種学会
4. 日時：平成 25 年 12 月 13 日（金）13：00～16：30
5. 場所：東京大学弥生講堂セイホクギャラリー
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

2013 年の IPCC5 次報告によれば、気候変動の原因の 95%は人間活動に有り、現在の化石エネルギーに依存した経済成長が続けば、今世紀末には世界の気温は 3.7 度上昇し、海面は約 1m 上昇すると予想されている。地球規模の温暖化によって、乾燥化や塩類集積による耕作可能地の減少、作物の栽培適地の移動、新規病虫害の発生など、近未来の人類の生存にとって大きな負荷が生じることが懸念される。本シンポジウムでは、温暖化などの気候変動が作物栽培に及ぼす影響の実態とそれに対応した研究・技術開発について紹介し、今後の方向を参加者と一緒に議論する。

8. 次第：

13：00 趣旨説明

大杉 立*（日本学術会議連携会員、東京大学農学生命科学研究科教授）

13：10 温暖化に対応したイネの栽培技術改変

森田 敏（農研機構九州・沖縄農業総合研究センター）

13：50 園芸作物栽培に及ぼす気候変動の影響と対策（仮）

米森 敬三*（日本学術会議連携会員、京都大学農学研究科教授）

14：40－14：50 （ 休憩 ）

14：50 作物病害における温暖化の影響と対策技術（仮）

白石 友紀*（日本学術会議連携会員、岡山県農林水産総合センター生物
科学研究所長）

15：30 画像情報等の作物生産における温暖化対応技術への応用
大政 謙次（日本学術会議第二部会員、東京大学農学生命科学研究科教授）

16：10 総合討論
（司会）

国分 牧衛*（日本学術会議連携会員、東北大学農学研究科教授）

（コメンテーター）

奥野 員敏*（日本学術会議連携会員、筑波大学北アフリカ研究センター
研究員）

16：30 閉会の辞

矢澤 進*（日本学術会議第二部会員、京都学園大学バイオ環境学部特
任教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（*印の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「東洋学・アジア研究の新たな振興をめざして」の開催について

1. 主 催 日本学術会議史学委員会 アジア研究・対アジア認識に関する分科会、東洋学・アジア研究連絡協議会
2. 日 時 平成 25 年 12 月 14 日 (土) 13 : 30 ~ 17 : 00
3. 場 所 東京大学法文 2 号館 1 番大教室
4. 分科会の開催 開催予定なし
5. 開催趣旨

日本と世界の東洋学・アジア研究の衰退の危機が指摘されて、すでに久しい。このような危機の到来は、東洋学・アジア研究の研究者に対し、自己の学問の根本的な再検討とその再興に向けた努力を迫るものであり、同時にまた各自の学問的ディシプリンや所属研究機関・学協会の相異を超え、多くの研究者が相互に連携・協同しあいながら、これに立ち向かうことを求めるものでもある。従来、日本の東洋学・アジア研究は、西欧に由来する普遍主義的な近代の学問を相対化することにつとめ、普遍的真理という一色の絵具で塗りこめられることが少なかった。現在、そうした長所を活かし、東洋・アジアにおける個別的文化現象の価値を内在的に再構成していくことが重要になっている。

そこで 2004 年に設立された東洋学・アジア研究連絡協議会 (約 40 の学協会が加入) と日本学術会議アジア研究・対アジア認識に関する分科会の共催により表記シンポジウムを開催し、今日の状況に即した東洋学・アジア研究の振興の道を探ることにしたい。

6. 次 第

開会挨拶：久保 亨* (日本学術会議連携会員、信州大学人文学部教授)

「人文学的アジア研究の現状と課題、そして展望」

司 会：池田 知久 (山梨大学教授、東洋学・アジア研究連絡協議会会長)

登 壇 者：村尾 誠一 (東京外語大学大学院教授、和漢比較文学会)

「和漢比較文学研究の現状と課題」

柴山 守 (京都大学特任教授、東南アジア学会)

「『東西回廊』再考——東南アジア大陸部における文化交流の歴史的動態をよむ」

井口 和起（京都府立大学名誉教授・東アジア近代史学会）
「東アジア近代史の可能性」

齋藤 明*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究
科教授、日本印度学仏教学会）

「仏教思想は甦るか——仏典、翻訳、そして現代」

内田 慶市（関西大学教授・東アジア文化交渉学会）

「文化交渉学と言語文化接触研究——周縁からのアプローチ」

閉会挨拶：池田 知久（山東大学教授、東洋学・アジア研究連絡協議会会長）

7. 関係部の承認の有無：第一部承認

（*印の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「高齢化社会の若者論——労働・福祉・コミュニティを考
える——」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 社会学委員会・社会学コンソーシアム分科会、社会学
系コンソーシアム

2. 日 時：平成26年1月26日（日）14：00～17：00

3. 場 所：日本学術会議講堂

4. 分科会等：開催予定

5. 開催趣旨：

社会の高齢化がいわれて久しい。2012年度の総務省統計によれば、総人口に
占める65歳以上人口の割合（高齢化率）は24.1%に達し、今後も上昇が予想さ
れる。それにともない、社会保障給付費は対国民所得比29.6%に上昇し、その
うち高齢者関係給付費は68.1%に達する。高齢化は世界中で進行しているが、
なかでも日本は突出しているといわれる。

こうした状況の中で、「若者」論もかつてとは様変わりしているかに見える。
若年層を社会的弱者、高齢層を既得権益受益者とする対立構造として捉える乱
暴な議論もある。また、実際、社会意識や価値観において、若年層と高齢層の
間に大きな断絶も観察される。しかし、当然のことながら、社会はすべての年
齢層によって構成される。

3.11後社会において、年齢層を超えてベターな社会を構想することが、現在、
喫緊の課題といえよう。

6. 次 第

開会挨拶

吉原 直樹（日本学術会議連携会員、社会学系コンソーシアム理事長、大妻
女子大学文学部教授）

司 会・オーガナイザー

遠藤 薫*（日本学術会議連携会員、社会学系コンソーシアム理事、学習院
大学法学部教授）

発 表（タイトルは仮）

1：若者論の物質的基礎

武川 正吾（日本学術会議連携会員、東京大学人文社会系研究科教授）

2：高齢化と若者の就業・職業観

太郎丸 博（日本学術会議特任連携会員、京都大学大学院文学研究科准教授）

3：社会保障制度における「若者」の位置

阿部 真大（甲南大学文学部准教授）

4：融解する「世代」論

仁平 典宏（法政大学社会学部准教授）

コメンテーター

白波瀬佐和子（日本学術会議連携会員、東京大学文学部教授）

古市 憲寿（(有)ゼント執行役・戦略企画部プランナー、東京大学大学院総合文化研究科博士課程）

閉会挨拶

今田 高俊*（日本学術会議第一部会員、東京工業大学大学院社会理工学研究科教授）

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

（*印の講演者等は、主催分科会委員）

(提案18)

公開シンポジウム「食肉をつくる細胞とその制御機構—筋肥大と脂肪蓄積のメカニズム解明に向けた新展開—」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 食料科学委員会 畜産学分科会、食肉をつくる細胞とその制御機構シンポジウム実行委員会
2. 共 催：日本食肉研究会、日本産肉研究会、独立行政法人畜産草地研究所
3. 後 援：日本畜産学会、肉用牛研究会、日本養豚学会、日本家禽学会（予定）
4. 日 時：平成26年3月26日（水）13：30～18：00
5. 場 所：つくば国際会議場
6. 分科会の開催：なし

7. 開催趣旨

良質な動物性タンパク質食品である食肉の主体は肉用家畜・家禽の骨格筋であり、肉用家畜・家禽の育成・肥育は、生体内で骨格筋を肥大させ、また、骨格筋内に脂肪を蓄積させることで、目的とする量と質の食肉を生産する畜産技術である。筋組織の肥大が優勢となるような遺伝的・環境的条件で家畜を飼養すると赤身主体の食肉が生産される。一方、筋肉内脂肪組織が発達するような遺伝的・環境的条件下で生産された食肉は霜降り肉となる。筋肥大は筋組織を構築する筋線維（筋細胞）がその容積を増大させることであり、筋肉内脂肪蓄積は脂肪細胞が脂肪滴を蓄え成熟脂肪細胞となり多数集合することによって起こる。また、筋細胞や脂肪細胞の増殖や分化、肥大や萎縮は、骨格筋内に共存する神経細胞やマクロファージ、線維芽細胞などの影響を受けると予想されている。したがって、家畜骨格筋における筋肥大機構および脂肪蓄積機構を解明するためには、骨格筋内に存在するこれらの「食肉をつくる細胞」の挙動を追求し、その相互制御機構を解明することが極めて重要になる。

本シンポジウムは、筋肥大・再生機構ならびに筋肉内脂肪蓄積機構に関する研究の第一線で活躍する国内外の研究者を招聘し、最近の研究成果ならびに今後の研究動向について講演していただくことで、筋肥大や筋肉内脂肪蓄積のメカニズムについての新知見を学び、家畜生産分野や食肉利用分野をはじめ、育種繁殖学分野、形態生理学分野など畜産学各分野における研究の新たな展開に資することを目的とする。

8. 次 第

13：30 開会挨拶：

佐藤 英明*（日本学術会議第二部会員、独立行政法人家畜改良センター理

事長)

13:45～15:00 基調講演

(座長) 西邑 隆徳 (北海道大学大学院農学研究院教授)、

辰巳 隆一 (九州大学大学院農学研究院准教授)

1. Skeletal muscle hypertrophy and regeneration regulated by myogenic stem cell dynamics (tentative title)

Dr. RE Allen (Muscle Biology Group, Department of Animal Sciences, University of Arizona, Tucson, Arizona)

2. Role of myostatin in myogenesis and adipogenesis (tentative title)

Dr. Ravi Kambadur, (Division of Molecular Genetics & Cell Biology, School of Biological Sciences, Nanyang Technological University)

15:10～17:10 一般講演 (仮題)

(座長) 眞鍋 昇* (日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

入江 正和* (日本学術会議連携会員、宮崎大学大学院農学工学総合研究科教授)

①筋幹細胞・神経細胞末端・マクロファージの細胞間コミュニケーション

辰巳 隆一 (九州大学大学院農学研究院准教授)

②筋原線維の形成・維持機構

尾嶋 孝一 (独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所主任研究員)

③幹細胞からの脂肪細胞への分化と細胞外マトリックス

保坂 善真 (鳥取大学農学部獣医学科准教授)

④骨格筋内脂肪形成のメカニズム

上住 聡芳 (藤田保健衛生大学総合医科学研究所助教)

⑤骨格筋などの組織特異的幹細胞の分化決定機構

山内啓太郎 (東京大学大学院農学生命科学研究科准教授)

⑥食肉の量と質を決定する肉用牛のインプリンティング機構

後藤 貴文 (九州大学大学院農学研究院准教授)

17:10～18:00 総合討論

(司会) 西邑 隆徳 (北海道大学大学院農学研究院教授)

(コメンテーター)

三輪 操 (東京農業大学短期大学部教授) (予定)

麻生 久 (東北大学大学院農学研究科教授) (予定)

18:00 閉会挨拶：土肥 宏志 (畜産草地研究所所長) (予定)

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*印の講演者等は主催分科会委員)